

F D 通信

2023年3月 第1号



特集：2022年度FD研修会

第1回FD研修会 - P 2 -

到達目標

- 授業上の工夫の事例から、自身の今後の教育の参考になる情報入手することができる
- 電子教科書の運営における実態を理解した上で、考えられる課題を把握することができる

第2回FD研修会 - P 4 -

到達目標

- 多様な個性を尊重し合う大学となるために「多様な性のあり方」に対する理解を深めることができる
- 新入生受け入れを前に、コロナ禍直撃世代である高校生の実情を把握することができる

第3回FD研修会 - P 7 -

到達目標

- 授業参観
他の教員の授業に参観することで、その良いところを自己の授業に取り入れることができる
- 動画視聴
様々な自己研鑽に資する動画の中から自分が興味のある動画を視聴することで、教員の資質を改善できる

ご挨拶

教育開発センター長 橋本 優花里

2022 年度もあっという間に終わりを迎え、まもなく新入生を迎える時期となりました。学内にはパンジーやビオラ、チューリップなど、色とりどりの花々が咲き、目を楽しませてくれています。

さて、教育開発センターでは、昨年度から IR 機能が付与され、今年度も試行錯誤をしながらその在り方を検討してきました。また、従来のセンター業務についても、中期計画に基づいて学修成果の可視化や FD の立案・実施など、センター委員の先生方には多くの

業務の遂行を担っていただきました。この場を借りて、ご協力に感謝申し上げます。

さて、今年度の FD ではセンター委員からのご提案を取り入れ、「自己研鑽 FD」という新しい FD の在り方を取り入れました。教育年数や経験、バックグラウンドの違いなどから、FD に関するニーズは必ずしも一様ではありません。そのため、先生方がご自身のご興味やニーズに沿って、ご自身の選択によって自己研鑽を目指した FD に取り組んでいただきました。

長らく教職科目だけを担当してきた私ですが、近年、全学教育科目を担当するようになり、「多様な学生」を肌で感じています。学生の在り方が変わり、教育の在り方も見直しと変革が必要な今、FD の役割はさらに重要になっていくと思われます。今後もセンター委員の先生方と協力し、学内の声も取り入れながら、FD をさらに充実させ、長崎県立大学の教育改善に努めてまいりたいと思います。今後とも教育開発センターへのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



▲佐世保校 学生支援課 森田さん撮影

2022年度第1回FD研修会

「授業における教育上の工夫と電子教科書の導入事例」

授業における教育上の工夫

教育開発センター委員 山口 文彦
情報システム学部
情報セキュリティ学科

コロナ禍でオンライン・オンデマンド形式での授業のための資料を作る機会を得た。発表者はプログラミング関連の授業を担当しており、こうした学生参加型の授業を行うにあたり、講義資料の一部だけを動画で補足する資料を作っている。コンピュータを操作する様子や、Power Pointのアニメーション機能を使った説明などに限って動画としたものである。アンケートに見る学生の反応は良好で、特に、操作例・実行例を繰り返し視聴できることが好意的に受け止められている。一方で、動画を観ない学生や、オンデマンド授業と勘違いしたのか欠席する学生もいる。

なお、欠席して課題だけ出す学生への対応についての質問を頂いた。さまざまな原因で生活態度を崩してしまい、結果として良い成績をとれない学生がいる。情報セキュリティ学科では、学科会議の際に気になる学生の情報を教員で共有し、必要であればチュータから声をかけることにしている旨、回答した。マスク着用が個人の判断にゆだねられるなどコロナへの対応は緩まりつつあるが、この機会に得たノウハウのうち、有用と思えるものは引き続き使っていくと思う。

電子教科書の導入について

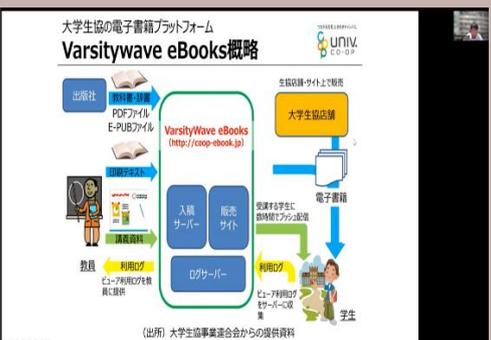
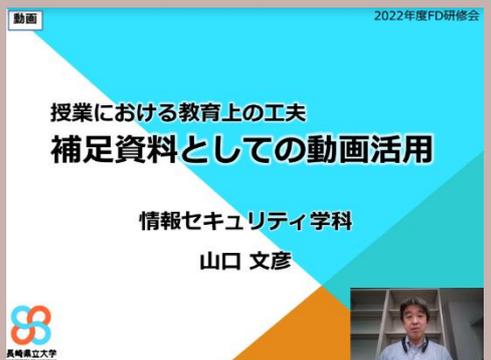
教育開発センター委員 黒岩 美翔
経営学部 国際経営学科

今回の全学FDでは、地域創造学部公共政策学科准教授の石田聖先生による「電子教科書の導入事例」についてご報告いただきました。報告の中では、他大学における導入事例をはじめ、電子教科書導入におけるメリット・デメリットについて情報提供いただきました。特にデメリットに関しては「導入、説明に時間がかかる」「通信環境によってはつながりにくい」等が挙げられており、これらは今後改善の余地があるところだといえます。

また、教員サイドの意見のみならず、学生においてもどのような反応があったのか、電子教科書を導入した科目の受講者に実施したアンケート結果も共有いただきました。その中で、電子教科書導入に関する学生の意見として、賛成と反対とが拮抗しており、「教育の改善や自身の勉強に活用できるなら賛成」「他の講義も電子教科書が採用されており、関連づけやすいなら導入に賛成」「大学の通信環境やプライバシーの保護の観点で懸念が残る」などの意見が挙げられておりました。通信環境の整備に関しては、大学におけるICT推進の側面からも総括的に取り組む必要不可欠な要素であると考えられます。さらに、「講義によって選び分けたい」という意見が散見されたことは、やはり科目によって電子教科書の適合性が異なることが窺えます。

まだ業界的にも徐々に浸透しつつある段階であることから、今回の石田先生のご報告は大変参考になる内容になっており、FDの振り返りアンケートにおいても「電子教科書にあまり触れたことがなかったため、利点と課題の両方を少しだけ理解することができたと思う」「メリットや現状における問題点が理解できた」などのフィードバックがありました。

様々な科目で導入を試み、教職員サイドと学生サイドの両方でメリットが感じられる場合には導入を進めていくなど、今後も実験をしながら検討を進めていく必要があると感じた研修会でした。



到達目標に対する事後評価

【到達目標1】

授業上の工夫の事例から、自身の今後の教育の参考になる情報を入手することができる

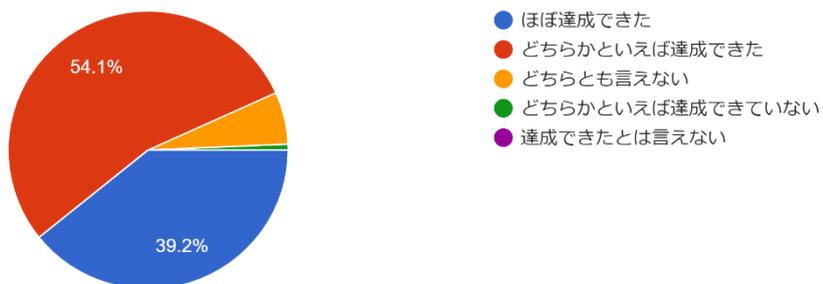
148 件の回答



【到達目標2】

電子教科書の運営における実態を理解した上で、考えられる課題を把握することができる

148 件の回答



2022 年度第 2 回 FD 研修会

「多様な学生への対応について」

教育開発センター委員 関谷 融
国際社会学部 国際社会学科

先生方および事務局の皆様のご協力によって、2月15日に実施された2022年度第2回FDも無事に終わることができました。遠隔での開催となりましたが、「多様な個性を尊重し合う大学となるために多様な性のあり方に対する理解を深めること」（【到達目標1】）及び「新入生受け入れを前に、コロナ禍直撃世代である高校生の実情を把握すること」（【到達目標2】）を目指して、質疑応答を挟む視聴者参加型で、次のお二人に、課題の明確化に向けた検討につながるご講演をいただきました。

【到達目標1】については、「LGBT等の理解と大学の課題について」と題して、「Take it! 虹（テイクイットニジ）」を設立し、性的マイノリティに関する人権サポートや啓発活動・交流会などの活動が行われている儀間由里香（ギマ ユリカ）様に、セクシャリティ（性の考え方）について、戸籍上性別、性自認、性表現、性的指向、SOGI(Sexual, Orientation, Gender Identity)といった基礎知識、およびこぼれおちる多様性、性の自己決定権をめぐるゆらぎ、性的少数者が日常生活で直面する悩み、カミングアウトとアウティングにまつわる問題状況、自殺状況やメンタルヘルスの課題、最近の社会意識や制度の状況、各方面での具体的な取り組みの紹介、相談・研修などの支援窓口におけるサポート事例等をご紹介いただき、「あたりまえを見直す」「Ally(性的マイノリティを理解し支援するという考え方やその考えを持つ人)」になろうといった意識改革等の重要性を講演いただきました。

【到達目標2】については、「コロナ禍における高校生の学びの実態」と題して、現在、長崎東中学校・高等学校の校長ならびに、長崎県高等学校校長協会の会長を務められている鶴田栄次（ツルタ エイジ）先生に、次の4つの視点から講演していただきました。

第1の視点として、2020年度から2022年度にわたるコロナ禍の情勢に対応した高校教育の実態を時系列で整理・説明いただきました。

第2の視点として、コロナ禍を経験した生徒たちの姿について、実態調査をもとにした説明をいただきました。

(1)学習意欲の低下、(2)長期欠席者・不登校の増加がみられる一方で、(3)デジタル機器の活用と探究的な学びに強みがあるところのご指摘でした。

第3の視点として、高校生のキャリア意識の特徴(変化)を、長崎県教委主催の「県内企業説明会」(ふるさと教育支援事業)の事後アンケート結果を基にご説明いただきました。

(1)将来ふるさとの発展に貢献したいという意識が高まった。

(2)地元企業の理念やそこで働く人の思いを知ること、自分自身の今後の生き方やキャリアについて考える機会となった。

最後に、4まとめとして大学への期待と要望をお話いただきました。

(1)コロナ禍の中で我慢を強いられた高校生活を送った新入学生は、新たな大学生活には大いに期待をしている。

(2)友人作りなどに不安感を持つ学生もいるため、オリエンテーションなどの工夫が重要。

お二人に講演いただいた後、参加者は希望分科会に移動(Zoom上でルーム分け)し、それぞれセンター委員がファシリテーターとして会を進行した後、全体会に戻ってそれぞれの内容を共有して終了の運びとなりました。

末筆ながら、この度のFDが、本学教職員の教学マネジメント力を進展させ、学生の学習成果向上につながっていくことを願っています。

「LGBT 等の理解と大学の課題について」の振り返り

教育開発センター委員 大田 謙一郎

経営学部 経営学科

2022 年度第 2 回 FD 研修会は、「多様な学生への対応について」という統一テーマに基づいて、2つの講演が実施されました。ここでは Take it! 虹代表の儀間由香里先生にご講演いただいた「LGBT 等の理解と大学の課題について」の講演内容および事後アンケートの結果の要約について報告致します。

講演内容のポイントとして 2 つ挙げられます。第 1 に、LGBT 当事者は私たちの身近に存在するという事です。儀間先生が用意された資料によると、三重県の高校 2 年生約 1 万人に対して実施されたアンケート調査によれば、彼らの約 10% が LGBT 当事者であるという結果が示されました。しかしながら、彼らは思春期におけるライフイベントを過ごすなかで、従来の男女に対する“あたりまえ”がすりこまれ、周囲にカミングアウトする機会が失われるケースもあると述べられました。彼らがカミングアウトしていないだけで、実は我々の身近に存在する可能性があるため、我々は日頃から言動や行動には細心の注意を払い、LGBT に対する知識の細目なアップデートが必要であることが示唆されました。第 2 に、LGBT 当事者がカミングアウト出来る環境を整えてあげることです。大学でいえば、設備等のハード面と相談体制やパートナーシップ制度の導入などのソフト面を整えることで、カミングアウトしやすい、あるいはカミングアウトしなくても安心できる環境がつけられることが示唆されました。

事後アンケートの結果について、LGBT の講演および分科会を通して、多様な個性を尊重し合う大学となるために「多様な性のあり方」に対する理解を深めることが出来たか、という質問に対して、回答者 140 名中 93 人が“ほぼ達成できた”（66.4%）と回答、44 人が“どちらかといえば達成できた”（31.4%）と回答、3 人が“どちらとも言えない”（2.2%）と回答し、概ねの参加者が多様な性のあり方に理解を深めることが出来たと考えられる。またその意見や感想について、ポジティブな意見としては、「今回かなり詳しく性的少数者の現状や抱えている課題を知ることができてよかった。」や「これまで想定していないような概念や例についても伺うことができ、情報のこまめなアップデートの重要性を認識いたしました。」などの意見を伺うことが出来ました。一方で「具体的にどうしたらいいのかがもっと欲しい。」などの意見もありました。

末筆ながら、本 FD を機会に、多様な学生を受け入れられる関係づくりや環境づくりの一助になっていくことを願っています。



「コロナ禍における高校生の学びの実態」分科会の振り返り

本分科会では、コロナ禍であっても高校側のご尽力により、高校生の基礎学力・公共性・地元思考性については大きな変化はないというお話を伺えました。ただし、高校時代に様々な活動の場が制限されたため、コロナ緩和の中で、新入生は高揚感を持って大学へ入学してくることが想定されます。その為、我々はその期待に応えるための工夫が必要であると思われます。例えば、大学側もオンライン授業から対面授業が増えておりますが、入学者に対して、大学での学び方・授業手法（グループワーク・ディスカッション・パソコンの使い方（出身高校での格差を作らない配慮））について、学ぶ内容は違えども、学び方は高校時代の延長線であることを伝えることで、一定の安心感を与えることができます。また、コロナ禍で大きな影響を受けたフィールドワークやマスクなしでの語学授業などについては、新入生が上手く適用できるよう軟着陸をはかる必要があるとの議論を行いました。

事後アンケートの中には、「現在の高校生が置かれている、取り巻く状況を正しく把握する一方で、いい意味で学生自身が殻を破って大きく成長できるよう、大学教員としてできることを模索していきたい」、「コロナ禍で高校生がおかれてきた状況を理解することで、現在の学生たち、そして新入生に教員として寄り添い、歩み寄ることが必要だと感じた」という意見が見受けられ、高校生の学びの実態について理解を深める貴重な機会となりました。

末筆ではございますが、本FDを機会に、今後の授業計画の一助になれば幸いです。



到達目標に対する事後評価

【到達目標1】

多様な個性を尊重し合う大学となるために「多様な性のあり方」に対する理解を深めることができる

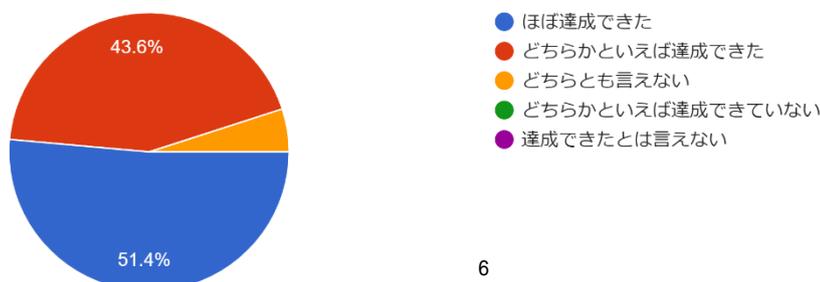
140件の回答



【到達目標2】

新入生受け入れを前に、コロナ禍直撃世代である高校生の実情を把握することができる

140件の回答



2022年度第3回FD研修会

「自己研鑽FD」

教育開発センター委員 田中 進

看護栄養学部 栄養健康学科

2022年度第3回FD研修会を「自身が興味を持つ動画や授業公開を了承していただいた先生方の授業参観を通じて、自己の教授能力を向上させる」を目的として開催した。自身で興味のある内容を探し選択する開催方式とし、教育開発センターからはGoogle Classroomにて、各種研修会や参観ができる授業の情報を提供した。

経営学科より1件、公共政策学科より3件、国際社会学科より4件、実践経済学科より3件、情報システム学科より1件、ならびに情報セキュリティ学科より3件、授業公開を行っていただきました。8名の先生方が参加され、今後も機会があれば参加したいとの回答が得られている。他学科の教員同士で授業を参考にしたり組み立てることは、我々だけでなく学生にとっても多様な価値観を育む機会になるものと考えられる。

動画視聴のために【1】東北大学高度教養教育・学生支援機構より16件、【2】愛媛大学教育企画室より45件、【3】文部科学省より11件、【4】公立大学教職員研修システムより36件、【5】その他2件の動画の許可を取り、Google Classroomにて公開した。その際、ご自身のタイミングで視聴できるよう動画時間も併せて公開した。結果、118件の回答が得られた。多くの先生方がご自身の興味のある分野や足りない部分を補う意味での動画視聴を行っており、シラバスの役割の再認識や教育のみならず科研費採択への一助として使われていた。

また、「動画を更に充実させて欲しい」といった意見も多く見られ、概ね動画視聴の試みは成功したとともに更なる充実が必要であると感じた。

一方で、「FDの回数を増やすことは、教員の負担を増やすことになっているのではないかと考えられるため、研修を行うという目的のための研修にならないように計画していただければと思います」といった意見もいただいている。

▼動画視聴一覧

【1】東北大学高度教養教育・学生支援機構	https://www.the.tohoku.ac.jp/CPD/pmodule/			
受講条件	特になし			
目的	タイトル	リンク先	受講者	動画時間
大学での授業設計や授業方法について学びたい 大学で授業を行うにあたって必要となるシラバス作成、効果的な学習目標デザイン、効果的な授業の準備方法について学びます。	授業デザインとシラバス作成	https://www.the.tohoku.ac.jp/CPD/PDFonline/archives/detail.php?id=67	1	86分
	インストラクショナルデザインへの誘い	https://www.the.tohoku.ac.jp/CPD/PDFonline/archives/detail.php?id=66	2	100分
学生指導のコツについて学びたい 現代大学生の心構えや行動について理解を深め、学生のモチベーションの向上や方向性の示すための効果的な指導方法について学びます。	学生理解と学生指導	https://www.the.tohoku.ac.jp/CPD/PDFonline/archives/detail.php?id=73	3	84分
	コーチング技能を活用した学生指導	https://www.the.tohoku.ac.jp/CPD/PDFonline/archives/detail.php?id=67	4	86分
	大学生のクリティカルシンキングの育成	https://www.the.tohoku.ac.jp/CPD/PDFonline/archives/detail.php?id=74	5	77分
大学の教育のありかたについて考えたい 日本の大学のありかたの歴史と変遷、大学の歴史的・現代的課題について、他国との比較歴史的な背景を学際的に学びます。	大学教育論：教養と専門の二項対立を越えて	https://www.the.tohoku.ac.jp/CPD/PDFonline/archives/detail.php?id=13	6	71分
	大学カリキュラムの構築と構成原理	https://www.the.tohoku.ac.jp/CPD/PDFonline/archives/detail.php?id=50	7	78分
大学の歴史や高等教育政策について学びたい 大学の歴史的な成立、発展過程や近代以降の日本の大学の歩みについて学びたい。日本における高等教育政策の動向や課題について考えます。	歴史から見た大学：中世から現代まで	https://www.the.tohoku.ac.jp/CPD/PDFonline/archives/detail.php?id=20	8	132分
	大学教育改革のトレンドと日本が目指すべき21世紀の大学課程教育	https://www.the.tohoku.ac.jp/CPD/PDFonline/archives/detail.php?id=17	9	74分
大学における教育・学習リーダーシップについて学びたい 大学において教育や学習の推進を効果的に進め、組織のリーダーシップを高めるための「リーダーシップ」のあり方について学びます。	国立大学のガバナンスとリーダーシップ	https://www.the.tohoku.ac.jp/CPD/PDFonline/archives/detail.php?id=44	10	79分
	私立大学のガバナンスの課題と展望 一地方中・小私学の可能性	https://www.the.tohoku.ac.jp/CPD/PDFonline/archives/detail.php?id=45	11	83分
大学における教育・学習リーダーシップについて学びたい 大学において教育や学習の推進を効果的に進め、組織のリーダーシップを高めるための「リーダーシップ」のあり方について学びます。	リーダーシップと意思決定	https://www.the.tohoku.ac.jp/CPD/PDFonline/archives/detail.php?id=11	12	73分
大学教員の専門性・経路開発について学びたい 近年、教育研究の重要性がますます高まる中で、大学教員としての専門性・能力が求められている大学教員の専門性開発について学びます。	大学教員の専門性開発 - その現状と課題 -	https://www.the.tohoku.ac.jp/CPD/PDFonline/archives/detail.php?id=13	13	84分
研究倫理のあり方について学びたい 研究倫理として知られていく研究倫理について事例を通して学びたい。大学での研究倫理に関する取組みや、研究不正の実態などについて学びます。	倫理倫理を考える	https://www.the.tohoku.ac.jp/CPD/PDFonline/archives/detail.php?id=54	14	52分

▼授業公開一覧

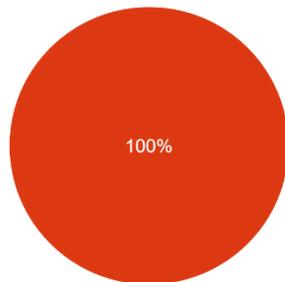
授業公開一覧 (第3回FD研修会)												
開催校	学科	担当教員	時期	曜日	時間	科目情報	履修人数	授業のタイプ・特徴	受講No.	参観可能日	教室	備考
シ校	情報システム学科	前村 真子	3Q	月曜日	1時間	信号処理	1~20人	対面授業	1	11月14日(月)	W201情報演習室1	
シ校	情報セキュリティ学科	斎藤 正也	3Q	月曜日・木曜日	4時間	統計学	51人~100人	対面授業	2	3Qの毎週月曜日・木曜日	W102講義室	
シ校	情報セキュリティ学科	福光 正幸	3Q	月曜日・木曜日	3時間	統計学	21~50人	対面授業	3	3Qの毎週月曜日・木曜日	W103講義室	
シ校	情報セキュリティ学科	山口 文彦	3Q	火曜日・金曜日	4時間	オブジェクト指向プログラミング	21~50人	対面授業、実習、PBL、プログラミング、半ば自由課題	4	11月11日から11月25日までの毎週火曜日と金曜日	W202情報演習室2	
シ校	国際社会学科	吉永 正祐	3Q	月曜日・木曜日	4時間	ジェンダー論	21~50人	対面授業	5	3Qの毎週月曜日・木曜日	W104講義室	
シ校	国際社会学科	時藤昌志	3Q	火曜日・金曜日	5時間	メディア社会学入門	51人~100人	対面授業	6	11月15日火曜日、11月18日金曜日	W102講義室	事前連絡必要 連絡先: momoe@sun.ac.jp
シ校	国際社会学科	高岡理	3Q	月曜日・木曜日	2時間	比較文化論	1~20人	対面授業	7	3Qの毎週木曜日	M202講義室	事前連絡必要 連絡先: zgg@sun.ac.jp
シ校	国際社会学科	柳 建民	4Q	月曜日・木曜日	5時間	中国語ⅡB(ヒアリング作文)	1~20人	対面授業	8	4Qの毎週月曜日	M204講義室	事前連絡必要 連絡先: qjnp@sun.ac.jp
佐校	経営学科	富地 真輔	4Q	月曜日・木曜日	3時間	数量論	51人~100人	対面授業、ケーススタディ	9	4Qの毎週月曜日・木曜日	101	
佐校	経営学科	富地 真輔	4Q	月曜日・木曜日	5時間	経営分析論	51人~100人	対面授業、ケーススタディ	10	4Qの毎週月曜日・木曜日	G-201	事前連絡必要(10日前までに事前連絡) 連絡先: mya@sun.ac.jp
佐校	経営学科	富地 真輔	4Q	火曜日	5時間	卒業論文	1~20人	対面授業、オンライン授業、演習(ゼミナール)、ケーススタディ	11	3Q-4Qの毎週火曜日	203	事前連絡必要(10日前までに事前連絡) 連絡先: mya@sun.ac.jp
佐校	公共政策学科	橋本優花里	4Q	火曜日	2時間	教育心理学	21~50人	対面授業、グループワーク	12	4Qの毎週火曜日・金曜日	203	

到達目標に対する事後評価

【到達目標1】

他の教員の授業に参観することで、その良いところを自己の授業に取り入れることができる

2件の回答

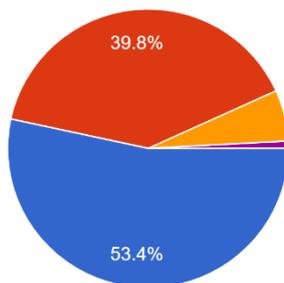


- ほぼ達成できた
- どちらかといえば達成できた
- どちらとも言えない
- どちらかといえば達成できていない
- 達成できたとは言えない

【到達目標2】

様々な自己研鑽に資する動画の中から自分が興味のある動画を視聴することで、教員の資質を改善できる

118件の回答



- ほぼ達成できた
- どちらかといえば達成できた
- どちらとも言えない
- どちらかといえば達成できたとは言えない
- 達成できたとは言えない

2022年度 教育開発センターメンバー

センター長 橋本 優花里 地域創造学部教授

副センター長 高橋 秀至 経営学部教授
柳田 多聞 国際社会学部准教授

センター員 大田 謙一郎 経営学部准教授
黒岩 美翔 経営学部講師
森岡 拓郎 地域創造学部講師
後藤 正之 地域創造学部教授

関谷 融 国際社会学部教授
山口 文彦 情報システム学部教授
青木 研 情報システム学部教授
田中 進 看護栄養学部教授
立石 憲彦 看護栄養学部教授

前田 士 佐世保校学生支援課長
田口 利通 シーボルト校学生支援課長



編集後記

本年度の通信は、全3回のFD研修会の特集としてお届けしました。本通信で多くの情報が共有され、今後のFD活動がより充実したものになることを願います。（編集担当：両校事務局）

長崎県立大学 FD 通信 第1号（発行日 2023年3月31日）

※FD通信へのご意見ご感想をお待ちしております。

教育開発センター：edu@sun.ac.jp